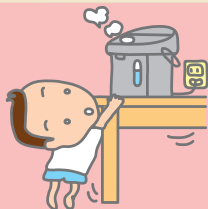


やけど



やけど

- 流水で十分に冷やす
(最低でも 20~30 分以上冷やす)
- 水ぶくれはつぶさない
- 何も塗らない

- 子どもの手のひらより小さく、赤くなっているだけ
- 水ぶくれはない

様子を見ながら、翌日、かかりつけ医を受診する

- 水ぶくれがある
- 子どもの手のひらより大きなやけど
- 顔、関節部、外陰部のやけど

かかりつけ医、または救急医療機関を受診する

- 皮膚が黒く焦げている
- 皮膚が白くなっている
- 全身または広範囲のやけど

救急車を呼ぶ



119

● 観察のポイント 🔍

- 水ぶくれができていますか
- 皮膚が黒く焦げていませんか
- 皮膚が白くなっていませんか
- 顔や関節の部分、外陰部などのやけどはその後の機能に影響することがあるので、早めに受診してください。



● 家庭でできること 🏠

- 痛みが引くまで流水で冷やしてください。(20分程度)
- 服を着たままのやけどは服の上から冷やします。
衣服が皮膚にくっついているとき、無理にはがさないでください。
- 市販の解熱シートはやけどの冷却用には使えません。
- やけどの部位にはアロエなど、何も塗らないでください。
- 水ぶくれはつぶさないようにしましょう。
- 予防が大切です。
テーブルクロスは使用しない。
ストーブ、アイロンなど熱源に近づけないようにする。
電気毛布、電気カーペットに長時間接すると低温やけどを起こすことがあります。



● お医者さんに伝えてほしいこと

- やけどの原因
熱湯、油、ストーブ、炊飯器やポットなどの蒸気など
- 行った処置の内容